五所川原

太宰治

叔母が五所川原にゐるので、小さい頃よく五所川原へ遊びに行きました。旭座の舞台開きも見に行きました。小学校の三、四年生の頃だつたと思ひます。たしか友右衛門だつた筈です。梅の由兵衛に泣かされました。廻舞台を、その時、生れてはじめて見て、思はず立ち上つてしまつた程に驚きました。この旭座は、そののち間もなく火事を起し、全焼しました。その時の火焔が、金木から、はつきり見えました。映写室から発火したといふ話でした。さうして、映画見物の小学生が十人ほど焼死しました。映写の技師が罪に問はれました。過失傷害致死とかいふ罪名でした。子供にも、

どういふわけだか、その技師の罪名と運命を忘れる事が出来ませんでした。旭座といふ名前が「火」の字に関係があるから焼けたのだといふ噂も聞きました。二十年も前の事です。

七ツか、八ツの頃、五所川原の賑やかな通りを歩いて、どぶに落ちました。かなり深くて、水が顎のあたりまでありました。三尺ちかくあつたのかも知れません。夜でした。上から男の人が手を差し出してくれたのでそれにつかまりました。ひき上げられて衆人環視の中で裸にされたので、実に困りました。ちやうど古着屋のまへでしたので、その店の古着を早速着せられ

ました。女の子の浴衣でした。帯も、緑色の兵古帯でした。ひどく恥かしく思ひました。叔母が顔色を変へて走つて来ました。

私は叔母に可愛がられて育ちました。私は、男ツぷりが悪いので、何かと人にからかはれて、ひとりでひがんでゐましたが、叔母だけは、私を、いい男だと言つてくれました。他の人が、私の器量の悪口を言ふと、叔母は、本気に怒りました。みんな遠い思ひ出になりました。

底本：「太宰治全集　10」筑摩書房
1990（平成2）年12月25日初版第1刷発行
初出：「西北新報」
1941（昭和16）年1月1日
※初出情報は、底本603ページの解題に示された「推定」による。
入力：砂場清隆
校正：林　幸雄
2002年12月3日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫

（http://www.aozora.gr.jp）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。